



～大阪港の安全を守る 水上消防署～



木造庁舎(水上消防署提供)

多くの船舶が行き交う大阪港。港の安全を守る水上消防の歴史は、安治川水上警察署の巡邏船^{じゅんらせん}に消火ポンプを設備し、船舶・沿岸の火災消火に備えた明治18(1885)年に始まります。消防署としては明治44(1911)年大阪府西消防署朝日橋分署に水上消防屯所が設置され、同年、全国に先駆けた本格的な消防艇「常盤丸」が就航しています。大阪港の発展とともに独立した強力な水上消防署の建設が要望され、昭和21(1946)年に天保町関西汽

船乗船場の東に木造平屋建の庁舎ができました。昭和27(1952)年、望楼^{ぼうろう}(火の見櫓^{やぐら})のある鉄筋コンクリート2階建ての庁舎が現在の場所に建てられ、その翌年には消防艇ほか25隻が参加する全国初の水上出初式が中央突堤、大阪港内で実施されました。



昭和27年にできた鉄筋庁舎(水上消防署提供)

大阪港内では船舶火災として最大級の惨事もありました。昭和63(1988)年5月18日未明、中央突堤に停泊中のソ連客船「プリアムーリエ号」の炎上による死者11人、負傷者35人の痛ましい事故です。親善交流を目的とした青年観光団など乗客乗員424人が乗船しており、その多くは就寝中でした。通報が遅れたため、消防隊が到着した時には船体開口部から盛んに黒煙が噴出しており、消火活動は困難をきわめました。ポンプ車をはじめ49台、消防艇2隻、航空機1機と356人の人員が出動し17時間をかけて鎮圧されました。



プリアムーリエ号火災
(大阪市消防局『大阪市消防五十年のあゆみ』より)

水上消防署は海の上だけでなく、天保山運河より西の陸地域を管内として活動しています。また、市内で唯一、水難救助隊があり、港区だけでなく市内全域の河川で潜水中の事故、河川や海への転落者の人命救助も行っており、文字通り大阪市の水上の安全を守っています。